

上志津まちづくりだより

発行責任者：会長 蕪木昭夫
編集：広報部会

平成26年3月

第3号

まちづくりフォーラム初参加

平成25年度「まちづくりフォーラム」開催

2月16日(日)に、「想いをつむぐまちづくり」をテーマに、平成25年度のまちづくりフォーラム(市民協働推進講演会&市民協働事業報告会)が、佐倉市中央公民館ホールで開催されました。

地域まち協：7団体、市民提案：1団体の合計8団体が参加し、「上志津まちづくり協議会」は初めての参加となります。

それぞれの団体が、持ち時間6分で1年間の活動をアピールします。上志津まちづくり協議会は、副

事務局長の島さんがマイクを握り、防災防犯部の活動成果を紹介した後、文化事業部の活動報告として、“なかよし太鼓”の実演を舞台で行いました。

手前味噌で恐縮ですが、上志津まちづくり協議会が一番良かったと思います。

まだまだ周知されていないようで、来場者は、ほとんど関係者のみという状況です。来年も同じ頃に開催されますので、皆さんもぜひご来場いただきたいと思います。



まちづくり協議会 1年目を終えて

■ これからのまちづくりについて

会長 蕪木 昭夫
(ローズタウン)

日頃、住民の皆様方には多大なるご協力ありがとうございます。

25年度の行事計画も無事終了しました。又26年度も地域住民の為の行事計画を推進してゆきたいと思っております。

東日本大震災から3年経ちました。また次の大地震の報道がマスコミで騒がれております。まちづくり協議会としても、防災対策を住民の皆様と取り組んでいくつもりであります。

その為には、住民の共助を賜りまして協議会も各自治会

の親睦を深め“絆がもてるまちづくり”をめざしてゆきたいと思っております。

そして、子どもたちには「なかよし太鼓」を通じて仲間づくりの輪を広げてもらいたいと思っております。

まちづくり協議会としても、住民の皆さま方と一緒に、この上志津地域の発展、そして地域住民の友愛を大切にして活動してまいりたいと考えております。

なによりも皆さま方一人一人のご協力がないと運営できませんので、今後も上志津まちづくり協議会をよろしくお願ひ致します。

■ 文化事業部の活動

副会長・文化事業部長 上岡 幸徳
(上志津二区自治会)

● なかよし太鼓育成の現状報告

まち協設立から約半年が経過しました。文化部会活動「なかよし太鼓」の現状報告をしたいと思います。

設立の目的（心豊かで暮らせる活力に満ちたまちづくり）である親睦、連携、協力等をめざすまちづくりとは、何がいか、部会で検討した結果、他のまちづくり協議会で取り上げていないような事業はないかと、部会員で一つの方向付けを考えました。

いろいろ検討した結果、1自治会に小さな活動「なかよし太鼓」があり、地域の活性化と親睦に貢献できるのではないかと趣旨で設立することになりました。

今後の部会員の役目は、いかに「なかよし太鼓」を発展させて活性化していくことが大事であり、今年度から、部会員も交替で「なかよし太鼓」の練習に参加し、側面から

サポートしていくことを部会で決定しました。

今後も「なかよし太鼓」の会員が増えていくように期待したい。

● 次年度の事業計画

次年度は、もう一つ事業を何にするかを部会で検討しました。いろいろな意見（ボランティア活動・昔の遊び体験教室・健康セミナー・健康管理の推進）が出て、最終的に大人も子供もいっしょになって交流する場を、ということで「畑体験教室」を事業として計画して推進していくことに決定しました。

まち協部員で近隣の土地等に詳しい人もおり、土地確保で検討中です。どのような「畑体験教室」がベターなのか、部会で検討して多くの人に参加できる「畑体験教室」になればと思っております。

■ 防災防犯部の活動

副会長・防災防犯部長 平野 武
(ハイホーム志津駅前自治会)

● 平成25年度活動について

10月13日、上志津まちづくり協議会合同防災訓練を上志津小学校にて実施しました。AM9:30に校庭に集合（避難）、当日は地域住民352名の今までにない大勢の皆さんが参加され改めて住民の皆さんの防災意識の高さを痛感いたしました。

訓練の内容は、消火器による初期消火訓練、煙体験訓練、地震車による地震体験訓練、プールの水を浄化しての給水訓練、備蓄倉庫内の物資確認、AEDを使用しての応急救命訓練等々の訓練を体験しました。

12月14日にはAM11:30に集合し、役員、理事23名が参加して、大型バスを利用し防災体験学習を行いました。

東京有明地区「そなエリア東京」の施設を見学し、係員の説明を受けながら防災に対する知識を得ることができました。研修を通じて、防災に関しては、ハード面（設備）以上にソフト面（人との繋がり）の充実が必要であることを再確認しました。

26年2月16日には、市民協働事業報告会「まちづくりフォーラム」が佐倉市中央公民館にて開催され、「上志津

まちづくり協議会」としては初の発表会となりました。

防災部の島さん（パストラルハイム）の身振り手振りを交えてメリハリのある発表をして頂きました。また、なかよし太鼓の実演もあり成功裡に終わりました。有難うございました。

以上が今年度の活動でしたが、今後もまちづくり協議会を通じてさらに防災意識を高めるべき活動をしていきたいと思っております。皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

● 平成26年度の抱負

「上志津まちづくり協議会」も発足して2年目を迎えます。地域の安心・安全なまちづくりを目指して取り組んでまいります。

計画として、7月頃に「本所防災館」の体験学習。10月19日に上志津小学校にて合同防災訓練、12～1月頃には、専門家による防災に関する講習会を開催したいと思っております。

防災防犯部会にて更に内容を詰めて参ります。よろしくお願ひ致します。

「地域活動」に思う

事務局長・広報部長 荻宿 務
(上志津二区自治会)

“子どもと年寄りが元気なまちに！”と云うテーマで、まちづくり協議会を立ち上げようと、23年の9月から始まり、25年の6月に漸く「上志津まちづくり協議会」が設立に至りました。

15自治会を中心に20団体で結成されています。それぞれの団体からの代表が役員や理事として参加して運営しています。

地域が変わっていくことは、そこに住んでいる人たちが変わっていくことです。住んでいる人たちが仲良くなり、連帯感が生まれることによって地域防災等の最も大事な“共助”は、極自然にできるようになります。また、連帯によって、一人一人の可能性が引き出されてきます。

「識る者は好む者に如かず、好む者は楽しむ者に如かず」と云いますが、地域活動は“楽しむべきこと”です。一部の人が犠牲になって苦しむ様なことではありません。

人が生きるために最も大事なことは「命」であり「健康」です。

二番目は、“命の次は金”でしょうか？人が、生きるために必要なのは“人間関係”であり“人との繋がり”だと思います。喜怒哀楽を共有しながら生きていくことが必要なのだと思います。

東北の人たちは、震災による悲しみを共有することによって連帯が生まれ、励まし合って“絆”ができました。

形や数を競い合うのが地域活動ではなく、人との繋がりの強さができて、連帯で様々な地域の問題に取り組んで行くことが大事なことだと思います。

他人の前を明るくしてあげることで、自分の前も明るくなるのではないのでしょうか。“人との絆の強さ”こそが、地域活動の目指すべき成果だと思います。

初年度を振り返って

副事務局長 島 めぐみ
(パストラルハイム)

昨年の4月に自治会役員になった為、『上志津まちづくり協議会』の前身である『準備委員会』での活動の経緯等を何も知らない状態でした。

そして、「パソコンで資料を作ることができる」というだけで副事務局長に就任してしまったようなもので、『上志津まちづくり協議会』の理念や活動を後追いで学んだ1年でした。

個人的には『上志津まちづくり協議会』の活動により、役員・理事をはじめ、たくさんの方々とお会いできた事は大変有意義でした。

また、【合同防災訓練】、【防災体験学習】、【まちづくりフォーラム】とイベントを終えて成果と反省を行う毎に、『上志津まちづくり協議会』の存在意義と今後の方向性が見えてきました。

『上志津まちづくり協議会』は初年度ということもあって、理事同士や自治会との連携において、組織としてはまだまだ未熟な部分があります。

組織としての真価が問われるのは2年目以降ですので、協議会全体が文字通り【一枚岩】となって様々な事に取り組めるよう努力していきたいと思っています。

「上志津まちづくり協議会」に参加して

会計部長 星野 晃
(社会福祉協議会)

私は、社会福祉協議会の一員として同福祉協議会の菅谷副会長との2名で参加しました。佐倉市内の他の小学校区では、数年前からいくつかの「まちづくり協議会」が出来上がっていましたが、それでも「上志津まちづくり協議会」を立ち上げるのは大変なことであると痛感しました。

ネーミングから始まり、理事の構成、任期、規約、取組事業、会費等、乗り越える課題は多くありました。参加した自治会そのものからして規模や自治会役員の選出方法、任期、取組課題等が違ってあり「まちづくり協議会」との兼ね合いをつける必要がありました。時には、立ち上げ前に解散を懸念されるような事態もありましたが、無事成立に漕ぎ着けたのは設立委員会のメンバーの熱意と佐倉市担当者の熱心なバックアップがあったからだだと思います。

設立後9か月経過しましたが、初年度の活動としては合格点が付けられるのではと思います。その要因は当初「協議会」が取組む事業が10数項目ありましたが、「防災防犯部」「文化部」「広報部」の各事業部が1事業に絞り完遂することとした点にあると思います。

取り組んだ事業は少なかったのですが、各自治会の役員が協力して行った事実は大きかったと思います。

協議会の理事の任期は2年ですが協議会が続くことにより、各自治会に協議会理事経験者が増え結果として協議会の

地盤が固まり発展してゆくのではないかと期待しています。

4月以降2年度に入りますが、あせらず地道にゆっくと進んで行く方が良いのではないかと思います。先ず初年度に取り組んだ事業の継続と定着を図るのが第一だと思います。広報誌を過去2回にわたり1回当たり4000部ずつ配布しましたが、まだまだ「上志津まちづくり協議会」の認知度が上がってないと思います。「大きな事業」より「身近な事業」に取り組みながら「活力ある地域づくり」という目的に一歩でも近づきたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。



「上志津まちづくり協議会」設立総会を終えて

監事 松本 春雄
(上志津平和自治会)

さる平成25年6月22日に「上志津まちづくり協議会」の設立総会が行われ、蕨市長が来賓として挨拶されました。

挨拶の中で市長は、大規模災害時、行政のみの対応では限界があり、自治会組織等、地域団体の協力が不可欠であることを繰り返し説かれました。

確かに、平成23年3月の東日本大震災時を思い起こしますと、災害時には行政自体の建物等にも被害が及び救済活動が停滞しました。致命的な問題としては災害に対応できる行政側の頭数が不足し、限界がありました。

その点においても、この度の「上志津まちづくり協議

会」の設立は理にかなっているものと思われます。現在の活動は手探り状態ですが、徐々に実績を積み上げ地域住民の絆を深めてまいりたいと思います。

私は、先ず上志津平和自治会での活動を充実させ、その延長線上として他の活動があると思います。具体的には「北部地区代表者会」「社会福祉協議会」等の多忙な活動に加え、この度の「上志津まちづくり協議会」があります。

各会・組織は各々の行事・日程を消化させるだけでなく各会・団体が連携して他の会や組織と内容調整し、一連の仕事をチームとして機能させていくべき時期に入っていると思います。

「なかよし太鼓」

理事 平地 美加

今回、上志津まちづくり協議会が発足され、文化事業部の一環として「なかよし太鼓」の育成が強化される事となりました。

なかよし太鼓は15年以上前から上志津二区自治会の一部として活動しておりました。当時は20名程の子供達だけで夏祭りや老人ホームの慰問等で演奏を行っておりました。

練習時の子供の送り迎えの際に、保護者達も和太鼓の魅力に取りつかれ、練習に参加させていただけることになりました。一見、簡単そうに見える太鼓の演奏ですが、いざやってみるとこれがなかなか難しい・・・大人達もすっかり和太鼓のトリコです。

練習に練習を重ね、皆様の前で披露する時の緊張感・爽快感・満足感はとても言葉で言い表す事はできません。

現在は、幼稚園生1名、小学生5名、中学生1名、高校

生1名、大人7名の計15名で練習しております。数年前から講師不在という危機の中、この度、西志津お囃子の会代表の大島氏をはじめ会の皆様から、和太鼓・篠笛等を基礎から教えていただける事となりました。

大島氏の指導は、とても楽しく、おもしろく、時に厳しく、大人も子供も日々練習に励んでおり、次の練習日を待ち遠しく感じております。今後は、和太鼓演奏の技術向上はもちろんのこと、各自自治会でのお祭りやイベント等で、その成果を披露していきたいと思っております。

和太鼓の演奏を通じ日本古来の文化に接し、青少年の健全な育成に貢献し、地域の活性化を図り、上志津の知名度を上げる事も目的としております。これからもなかよし太鼓の活動に関しまして、皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「上志津まちづくり協議会」に参加して

理事 國上 征義
(コープ野村志津自治会)

私がまちづくり協議会に参加したのは、平成24年度の自治会長に就任してからです。24年度、都合8回の設立準備委員会に参加しました。

この間約1年、市の指導を受け、役員・理事の努力により、昨年6月22日に設立総会が行われ、上志津小学校区、各自自治会、学校、PTAを含めた20団体による「上志津まちづくり協議会」が全員一致を以て承認されました。残念ながら私は、慶事により総会に出席できなかったことが悔やまれます。

私は、自分から防災防犯部に手を挙げましたが、以下活動状況を報告します。

総会后、8月に「佐倉市民協働推進委員会」で、事業内容の説明会に参加させていただきました。8月末の事業承認をもって、いよいよ防災防犯部の活動が始まります。

9月7日の「第1回理事会」のあと防災防犯部が開かれ、10月の合同防災訓練の準備の開始です。何を如何すればいいのか、役割等、誰も分かりませんでした。

昨年まで、合同防災訓練の幹事を行っていた「上志津二区自治会」防災防犯部長の田中氏から資料及びノウハウのほか、当日の準備に至るまでご協力いただき、大変感謝しております。約1か月の準備期間内で2回の部会が開かれ、準備を進め無事終了したことが嬉しかった。防災防犯部、初めての担当として、曲がりなりにも「まあまあ良く

出来た」と自画自賛しています。

続いて12月には「そなエリア東京」において防災体験学習事業を行いました。平野部長、松垣副部長の尽力で防災体験学習事業も無事遂行できました。参加人数が少ないようでしたが、それなりの成果があったように思います。

2月には佐倉市が主催する「まちづくりフォーラム」があり、掲示物資料作りも何とか間に合わせることが出来ました。今年度の防災防犯部会の事業は全て終わりましたが、あつという間の1年間でした。この1年間の経験を基に、来年度の事業計画及び実行に関する打合せを、防災防犯部会全員で取り組んで行きたいと思っております。

編集後記

模索しながら初年度の活動が終わりました。少しずつ方向性が見えてきたように思います。継続させるためには2年目が重要です。

日本人は勤勉で優秀な民族で、200年以上続いている企業が日本には2000社以上あるそうです。これは、世界的に見て断トツで2位のドイツが800社程度です。

日本車は故障しないことで世界の信用を得ました。日本の物づくりは全て「優秀」であることで認められています。

“物づくり”は“人づくり”です。若い優秀な人材が、魅力を感じて参加するような「まち協」に皆で育てていきたいと思っております。 苺宿